

# シニアのための住空間創出特集



## 人生を楽しむために 『家』を建て替える という新発想

ヘーベルハウス

土屋ホーム

YKKAP

人生が長くなっている今、住まいの寿命もまた、長いスパンで見直すことが必要だ。60歳から無理なく家を建てる方法を提案する建築家の湯山重行さんに話を聞いた。

「六十歳で家を建てる  
と、人生が変わる」。この提  
案に、驚く方も多いのでは  
ないでしょうか。

湯山 ちよつとびつくりす

悩み、振り回されるのはも  
つたない。人生を楽しく  
過ごすために家を使いたお  
す。そんな発想で考えてい  
たのだと思います。

るかもしれないね。かつ  
て思い浮かべた「六十代」  
は、定年したら退職金で隠  
居生活、家は介護に備えた  
バリアフリー仕様にして

——住み慣れた家を建て替  
える、あるいは新築に移り  
住むことで、どのようなメ  
リットがあるのでしょうか。

……というステレオタイプ  
な感じですが、でも、僕の事  
務所を訪れる六十代はまだ  
ピンピンしていますよ。み  
なさん若くておしゃれで元  
気。服飾関係のお仕事をし  
ていた七十代の女性が建て  
替えるのご相談に来たことも  
ありました。建築士の僕が  
いうのも変な話ですが、こ  
れまで地道に人生をがんば  
ってきた方が、たかが家に

湯山 一つは、負の遺産を  
家族に残さないための準備  
ができるという点です。最  
近は老朽化したビルや戸建  
てを抱えて、その活用方法  
に悩んでいるというご相談  
が増えていきます。物件の管  
理や状態によりますが、多  
くはあと数十年持つかとい  
えば難しい、使いにくい。  
しかも不動産は取り壊すの  
にもかなりお金がかかりま  
す。それならば、今のうち



ゆ やましげゆき  
**湯山重行**

建築家・エッセイスト

1964年神奈川県生まれ。アトリエシゲ  
一級建築士事務所代表。コンパクトハウ  
スや古民家の再生などさまざまな設計  
を手がけている。著書に「500万円の家  
を建てる」(飛鳥新社)など



60歳からの家作りのアドバイス  
をまとめた著書「60歳で  
家を建てる」(毎日新聞出版)

から住みよい家に建て替えた方が、子どもたちも安心です。

それに建て替えば、住宅の基本性能は間違いなく向上します。もしも今、築三十年以上の木造住宅に住んでいる方なら、耐震強度や断熱性の差は歴然。健康にもいいし、安全面でも機能が向上します。

『今さら荷物をまとめて住み替えるのは面倒だ』という意見も出そうです。湯山 ところが家の建て替えて、荷物の整理に前向

きに始めるすぐいいいきつかけなんです。断捨離という言葉も流行しています。が、だからといって子どもから「捨てて」「片付けろ」と言われて荷物整理をしづらいやると気持ちに乗らない。でも『新居には何を持っていないか』『これはもう不要だな』と、新しい生活

を思い浮かべながら取り組めれば、心持ちがずいぶん違います。子どもたちの立場でも、親のアルバムや趣味の小物は遺されても使えないけれど、片付けるのも忍びない。親自身が前向きに取り組めるのが一番なんです。

——費用や土地の取得なども気になります。

湯山 老後を過ごせるだけの蓄えや住宅ローンがないことは必須条件ですが、潤沢な予算や広々とした敷地がないと家を建てられないというのは誤解です。設計の工夫次第で、予算の範囲内で、限られた敷地でも満足度の高い家に建て替えることも十分に可能だと僕は思います。著書ではその一案として、『60（ロクマル）ハウス』という平屋住宅を図面付きで紹介しています。敷地が狭くて平屋は難

しいというなら、ほかのアイデアを考えればいい。例えば、天井の高さに一工夫を加えるだけで、同じ六畳間でもぐんと開放的な印象になります。

——人生を楽しむための秘訣とはなんでしょうか。

湯山 人生において大切なのは「健康」「時間」「お金」。この三つが揃っている時期は、実は十年か二十年しかありません。だからこの三つがあるうちに、思い切りやりたいことをやってほしいと思います。その意味で六十代は、身の丈にあつた住まいの建て時。そして、お金はないけれど健康と時間は存分にある若い人たちは、その利点を生かして、ひるまずにいろんなことにトライしてほしい。さまざまな経験がきつと、六十歳からの家づくりをもっと有意義にするはずですから。